

19 芸術・文化の振興			
主管課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課		
主管課長名	佐々木 淳	電話番号	042-481-7541
関係課名 (組織順)	協働推進課, 産業振興課, 環境政策課, 社会教育課, 公民館, 図書館, 郷土博物館		
目的	対象	市民	
	意図	芸術・文化に触れる機会が提供され, 芸術・文化活動が活発になる	
施策の方向	市民が芸術・文化を日常的に身近なものとして楽しみ, また, 自らいきいきと芸術・文化活動を行えるような環境を整備することにより, 文化の香り高い, 市民文化をはぐくむまちづくりを進めます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和2年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)	
<p>(19-1 市民の芸術・文化活動の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づき, 市民が芸術・文化と触れる機会の提供と自ら芸術・文化活動を行える環境づくりのため, (公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会をはじめとする市民団体, 事業者など多様な主体と連携しながら, コロナ禍においても音楽や演劇など様々な事業を可能な限り実施した。 ・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では, 感染防止対策を徹底したうえで, オンラインを活用した映像配信・ワークショップの実施など, 工夫を凝らしながら「調布国際音楽祭」「調布市民文化祭」「映画のまち調布 シネマフェスティバル 2020」をはじめとする各種取組を展開した。 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に沿った市民の芸術・文化活動の促進・支援においては, 産業, スポーツ, 国際交流, 教育, 福祉など幅広い分野との連携や地域固有の文化資源の活用を図りながら, 各種取組を展開した。 ・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では, 文化施設3館(文化会館づくり, グリーンホール, せんがわ劇場)に加え, 郷土博物館や武者小路実篤記念館とも事業展開において連携を図った。 ■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」 ・市民の安全確保を第一としつつ, 市内の活気やにぎわいを創出し, うるおいや安らぎをもたらす市民の芸術・文化活動の促進・支援に努めた。 ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 ・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では, 2019年・2020年に向けた財団独自の次世代継承のテーマとして「100年後の君へ。」を掲げ, 深大寺とゆかりの深い能楽を様々な角度から取りあげる「調布能楽オッセイ」や, 廃材・端材を活用してアート作品をつくる「クリエイティブリユースでアート!」について, これまで積み重ねてきた取組の集大成として実施した。 ■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」 ・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では, 共生社会の推進をテーマとして, 文化会館づくり, グリーンホール, せんがわ劇場を一体的に活用した「調布・巡る・アートプロジェクト」を開催し, 各館に展示した現代アート作品を巡ることでアートに触れる機会の創出を図るとともに, 市内福祉作業所等と連携したオンラインワークショップを実施した。 ・市内の福祉作業所等で活動する方々のアート作品を展示する「パラアート展」については, 新型コロナウイルスの影響及び東京2020大会の開催延期に伴い中止したが, 「調布・巡る・アートプロジェクト」において, パラアート展の過去作品を展示した。あわせて, 令和元年度のパラアート展関連ワークショップにおいて制作したアートデザイン及び市の「パラハートちょうふ」のロゴを使用して, “調布駅前商店街”・“調布駅前から盛り上げる会”がエコバックを制作したことから, 「調布・巡る・アートプロジェクト」の中で実施したデジタルスタンプラリー参加店舗においてエコバックの販売を行い, 「パラハートちょうふ」の普及啓発につなげた。 	
<p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バッハ・コレギウム・ジャパン」との連携による調布国際音楽祭について, 有観客での公演を全て中止し, 「@調布国際音楽祭」としてオンラインで実施し, 世界中から参加した100人の音楽家による「第九」の演奏をはじめ, 午前・午後・夜間の1日3回, 計23本のプログラムを配信し, 国内外からの視聴があった。 ・調布シネマフェスティバルについて, 大幅な規模縮小を余儀なくされたが, オンライン配信による「映画のまち調布賞」授賞式, シアタス調布と連携した各種上映・イベントを実施したほか, 調布市を拠点に活動してきた石原プロモーションの解散を受け, 石原プロモーション制作のドラマや映画・音楽に関連した展示を行うなど, 「映画のまち調布」ならではの特色あるイベントとして開催した。 	

(19-2 芸術・文化施設の整備・運営)

・市の文化施設について、新型コロナウイルスの影響により、令和2年4月1日から5月31日まで利用停止、令和3年1月12日から3月21日まで夜間区分を利用停止したほか、利用人数等の制限や施設利用キャンセルに伴う利用料金の還付を行った。

・指定管理者との定期的な会議や日常的な情報共有により、利用者の立場に立ち、安全、安心かつ清潔で快適な施設を目指した運営を行う中で、感染拡大防止対策を講じたうえで市民が安心して文化活動を楽しめる環境づくりに努めた。

・公共建築物維持保全計画に基づき、施設の計画的な整備・維持管理を実施した。文化会館たづくりでは、令和3年度からの施設更新型E S C O事業の実施に向けた準備を進めた。

・施設におけるバリアフリーの推進について、文化会館たづくりで、トイレの洋式化を3箇所で行ったほか、グリーンホールで、大ホールのリハーサル室側の階段に手すりを設置するなどの改修を行った。

・グリーンホールの更新を見据えた取組については、ホールの整備及び運営に関する専門的知見を有するコンサルタントからの支援を受け、ホール機能及び規模の検討を行うとともに、先進事例となる他自治体ホールの視察を行ったほか、令和3年度に実施する、市の整備に関する考え方の検討に向けた庁内横断的な情報共有・準備に取り組んだ。

①横断的連携による施策の推進

・令和元年台風19号を踏まえた対応として、風水害時における避難所運営マニュアルの策定に向け、防災部門や(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団と連携し、文化会館たづくり及びグリーンホールにおいて避難所開設訓練を行った。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・文化会館たづくり1階エントランス壁面を「たづくりアスリートワンダーウォール!」としてラッピングし、機運醸成を図った。4回目となる令和2年度は、東京スタジアム、武蔵野の森スポーツプラザで行われる競技について、多角形平面構成のイラストで表現した。

■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、国籍、年齢、性別、障害の有無などを問わず、全ての人が芸術・文化に親しむことができる施設となることを目指し、「パラ劇場」研修を実施した。令和2年度は、障害のある人が出演者となる場合を想定し、健常者と障害者による舞台公演を行っている劇団の演出家や出演俳優を招いてワークショップを実施した。また、当該公演を実際に上演し、障害者や支援者の招待及び鑑賞サポートの実施を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

②調布のまちの魅力発信

・文化会館たづくり、グリーンホール、せんがわ劇場、それぞれの特色や地域性を生かしつつ、3館の連携によるスケールメリットを生み出すなど、市内の芸術文化の一層の発展に向けた環境づくりに取り組んだ。

<令和2年度における施策の成果についての総括>

・コロナ禍においても多様な主体との連携の下、オンラインを活用した映像配信・ワークショップの実施など、工夫を凝らしながら、可能な限り「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に沿った市民の芸術・文化活動の促進・支援を図った。

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団が共生社会の推進をテーマとして実施した「調布・巡る・アートプロジェクト」において、パラアート展の過去作品を展示するとともに、東京2020大会を契機として共生社会の重要性を発信する「パラハートちょうふ」の取組について普及啓発を図った。

・新型コロナウイルスの影響により、施設の利用停止、利用人数等の制限や施設利用キャンセルに伴う利用料金の還付等を行った一方で、感染拡大防止対策を徹底し、市民が安心して活動できる環境づくりに努めた。

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、窓口での対応やアンケートなど多様な手段を通じて、利用者の声の反映に努めながら、安全、安心かつ清潔で快適な施設を目指した運営を行い、利用者アンケートにおける文化施設3館の満足度は97.4%となった。

・グリーンホールの今後の更新を見据えた取組については、令和3年度での市の整備に関する考え方の検討に向けた庁内横断的な情報共有・準備に取り組んだ。

まちづくり指標	基準値 (基準年度)	単位	実績値		目標値
			令和元年度	令和2年度	令和4年度
1 1年間で芸術文化を鑑賞、または自ら芸術文化活動を行った市民のうち、市内公共施設を利用した市民の割合	53.9 (H30)	%	51.1	42.6	60.0
2 文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場の施設利用率(ホール系・会議室系)(上段:ホール系, 下段:会議室系)	84.9 78.1 (H29)	%	85.0 79.8	62.5 64.5	87.0 80.0

【特記事項】施設利用率について、緊急事態宣言中の施設利用停止分は含まず(分母に入れず)算出している。

2 令和2年度の振り返り — 評価 (CHECK)

◆施策の成果向上に向けて、令和2年度に実施した取組に対する評価

※コロナ禍を踏まえたプロセス、実績、成果の総合的な評価

総合評価	A	S：「実施した取組において顕著な成果が得られた。」 A：「実施した取組において予定した成果が得られた。」 B：「実施した取組において一定程度の成果が得られた。」 C：「実施した取組において予定した成果が得られなかった。」 D：「実施した取組において成果が得られなかった。」
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に沿い、多様な主体と連携しながら、オンラインの活用や厳重なチェック体制の導入など工夫を重ねる中で可能な限り各種事業を実施し、芸術文化に親しめる機会の創出を図るなど、市が目指す施策の方向に向けて一定の成果が得られたため。 ・文化施設3館の指定管理者である(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団との連携により、文化施設の適切な維持保全、安全で利便性の高い施設運営に努めるなど、市が目指す施策の方向に向けて一定の成果が得られたため。 	

3 施策の方向 — (ACTION)

◆コロナ禍の影響等を踏まえた現基本計画期間内(令和4年度まで)における施策の主な課題と取組の方向

・左欄と右欄において、丸数字で対になるよう記載

主な課題	取組の方向
①市民・団体の芸術・文化活動の支援	①(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会をはじめとする市民団体、事業者等と連携・情報共有を図りながら、それぞれのニーズに即した活動の継続に資する支援を検討・実施
②安心・安全に利用できる文化施設の管理運営	②引き続き国や東京都の動向を注視するとともに、十分な感染予防対策を徹底したうえで、市民が安心して文化活動を楽しめる環境を整備
③文化施設の老朽化、バリアフリー等課題への対応	③公共施設等総合管理計画や公共建築物維持保全計画に基づく計画的な施設整備を推進
④パラアートの今後の展開	④パラレガシーとして、福祉作業所等連絡会や民間事業者との連携によるパラアート展の継続実施など、芸術・文化における共生社会の実現に向けた取組を推進
⑤グリーンホールの更新に向けた取組	⑤総合福祉センター整備や調布駅前広場整備の動向を踏まえつつ、公民連携事業手法を前提としたグリーンホール整備の考え方を取りまとめ

◆デジタル技術を活用した利便性向上や事務の効率化に向けた今後の取組

(オンライン活用、ペーパーレス化、電子申請による手続など)

※重点プロジェクトに関連する取組(★印)、新規の取組(●印)、拡充の検討を要する取組(○印)、左記以外の取組(・印)

- ・オンラインを活用した事業の実施
- 文化施設における利用料金・チケット料金の電子決済サービスの充実に向けた検討

4 次期総合計画期間を含む中長期的な施策の方向(2030年代を見据えた方向)

◆施策を取り巻く状況(国、東京都・近隣自治体の動向など)を踏まえた取組の方向

※法改正・制度改正などに加えて、「フェーズフリー」、「スマートシティ」など多角的な視点も含めた状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	①文化芸術振興基本法の一部を改正する法律の施行(平成29年6月23日) 法律名が、「文化芸術基本法」に改正され、各関連分野における施策との有機的な連携、「年齢、障害の有無又は経済的な状況」にかかわらず等しく文化芸術の鑑賞等ができる環境の整備等の基本理念が追加。 ②障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行(平成30年6月13日)	①文化芸術基本法では、福祉・教育・産業など幅広い分野との連携について盛り込まれており、更なる横断的連携の強化 ②パラアート展の継続実施など、引き続き芸術・文化における共生社会の実現に向けた取組を推進 ③(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会をはじめとする市民団体、事業者等と連携・情報共有を図りながら、それぞれのニーズに即し

東京都や近隣自治体の動向等	③東京都「未来の東京」戦略策定（令和3年3月） 「戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略」の中で、 「芸術文化・エンターテインメントがあふれる日常を取り戻す仕掛けを打つ」ことを位置付け	た活動の継続に資する支援を検討・実施するとともに、コロナ収束後を見据えた展開を検討 ④市の次期総合計画とも整合を図りながら、計画5年目である令和5年度に見直し ⑤風水害時におけるグリーンホール及び文化会館たづくりの避難所としての体制を整備（マニュアル作成、備蓄品の確保、人員体制）
その他	④令和元年度から10年度までを計画期間とする（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団基本計画の策定（平成31年3月） ⑤令和元年台風19号を踏まえた対応	

19 芸術・文化の振興

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	事務事業の概要
1	芸術・文化事業の実施		●	文化生涯学習課	文化会館たづくり、グリーンホール及びせんがわ劇場での音楽、演劇、映画などの鑑賞及び参加型の事業を実施する。 各事業の実施に当たっては、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」を踏まえ、3つの文化施設の更なる連携と（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団のノウハウを生かした効果的・効率的な事業展開を図る。 ※事業費については、文化会館たづくり、グリーンホール及びせんがわ劇場の施設管理を含む（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団への指定管理料と財団の自主事業に対する補助金を計上
2	芸術・文化施設の維持・補修		●	文化生涯学習課	文化会館たづくり（平成7年竣工）及びグリーンホール（昭和52年竣工）について、施設・設備等が老朽化している状況を踏まえて、計画的な改修を行う。 せんがわ劇場（平成20年竣工）について、計画的な改修を行う。 グリーンホールは、今後の更新を見据えた施設の整備に関する考え方を整理するとともに、利用団体等の意見も踏まえつつ、機能等の検討を行う（行革プラン2019に基づく取組）。

19 芸術・文化の振興

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	R2 決算事業費(千円)	令和2年度の取組実績	実績評価	進捗状況・今後の取組の方向							今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関連する内容は冒頭に◆印を記載しています)		
								R2取組実績				方向				現状継続	
								計画前倒し	計画どおり	計画遅れ	コロナ影響	有効性改善	効率性改善	財政面改善			参加と協働改善
1	芸術・文化事業の実施		●	文化生涯学習課	1,227,267	(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団において音楽・映画・美術観賞等、各種芸術・文化事業を実施した。文化会館たづくり指定管理事業では、「たづくりアスリートワンダーウォール!4」、「調布・巡る・アートプロジェクト」など、東京2020大会の機運醸成とレガシー継承に向け、多様性の尊重、地域文化資源の活用や次世代の芸術家鑑賞家育成を推進する事業を実施した。新型コロナウイルスの影響により、「調布国際音楽祭2020」の公演を全てオンラインで配信したほか、「調布市民文化祭」「映画のまち調布シネマフェスティバル」などで一部事業内容の変更を行う一方、オンライン配信の併用や代替策としての展示の実施など状況に応じた事業展開を図り、コロナ禍において、引き続き地域コミュニティ活性化と市民の芸術・文化活動の推進に寄与した。また、従来の実施方法の見直しを行ったことで、遠隔地の方など新たな事業参加者の獲得にもつながった。	◎		●			●	●	●			今後も引き続き、文化会館たづくり、グリーンホール及びせんがわ劇場の指定管理者である(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団と連携を図りつつ、様々な事業を通じて、市民が芸術・文化に触れる機会を提供し、芸術・文化活動の活性化につなげていく。また、財団との連携においては、各文化施設における市民の芸術・文化の振興や、各種取組における課題解決に向けて適宜情報共有を図り、円滑かつ効果的・効率的な事業展開を図る。令和3年度は、共生社会の実現に向けた取組として、財団との連携によるパラアート展をはじめ、障害の有無や年齢、性別等にかかわらず誰もが芸術・文化に触れることのできる機会の一層の創出を図る。 ◆新型コロナウイルス感染症に伴う施設の利用停止や一部事業の中止がある中で、感染拡大防止の徹底や、取組の工夫により、状況に応じた適切かつ効果的・効率的な事業展開を図っていく。
2	芸術・文化施設の維持・補修		●	文化生涯学習課	89,180	指定管理者との定期的な会議や日常的な情報共有により、修繕等の優先度及び緊急性を精査し、より効果的・効率的な対応に努め、施設の貸出しへの影響を抑制することができた。主な内容としては、グリーンホール天井地下部材等調査、文化会館たづくりの地下駐車場等自動ドア部品交換、泡消火剤交換委託及び簡易自動消火設備修繕、受変電設備負荷開閉器及びパワーヒューズ更新、地下2階中水処設備活性炭・砂濾過交換及び内面補修・地下監視用カメラ・コントローラー更新、たづくり自転車用搬送装置更新、せんがわ劇場のエレベーター部品交換を実施した。グリーンホールについては、ホール整備及び運営に関する専門的知見を有するコンサルタントからの支援を受け、ホール機能の検討を行った。また、たづくり空調機更新を含む設備更新型ESCO事業の実施に向け、プロポーザル審査委員会を立ち上げ、事業者の募集を開始した。	◎		●			●	●		●		指定管理者である(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団との連絡を密に取る中で情報を共有し、施設の維持管理における各種対応の優先度、緊急性を把握し、引き続き、施設利用への影響を抑制する観点を踏まえながら、より効果的・効率的で計画的な予防保全・維持保全に努めていく。グリーンホールについては、今後の更新を見据え、整備手法、コストに関するシミュレーション等を踏まえたより具体的な検討に取り組みとともに、施設利用者や広く市民との情報共有を図りながら、ホール機能に関する検討を進める。文化会館たづくりでは、空調機更新をはじめとする設備更新型ESCO事業について、財団との連携の下、効果的かつ効果的な事業展開を図る。
								0	2	0	0	2	2	1	1	0	計
								0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	割合(%)

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「◎事務事業一覧(施策体系順)」をご参照ください。